

道本部労災職業病部会が労働局交渉 振動障害・じん肺の予防対策などで追及

道本部労災職業病部会は5月19日に北海道労働局交渉をおこないました。交渉には道本部の森国委員長、宮澤書記長、部会の深浦部会長、前田副部会長、福井事務局長と各支部の幹事など11人が出席し、労働局側は健康課の吉田佳孝課長、労災補償課の菅原幸浩労災管理調整官、監督課の小田桐和宏主任監察監督官などが対応しました。

要求項目全体への回答を受けたあと、振動障害・じん肺の予防対策などについてやりとりしました。振動障害の防止対策では「通達は16年前に出されたが減っていない」として、振動レベル測定器を熊本のように局の予算で配置することなどを求めました。トンネル工事について、「道内で施工されているのは56件で、うち監督指導を行っているのは37件」、「ずい道等建設労働者健康管理システムへの登録は今年3月末で46事業場、労働者数は集計していない」、アスベストアナライザーは「昨年度の貸し出し実績は5回」などの回答がありました。また、令和6年の石綿健康管理手帳の申請は105件で発給は101件、じん肺管理区分申請は70件で決定は持ち越し分をふくめて77件です。なお、振動障害の「適正給付管理」について、来年4月からの第14次3か年計画にむけて意見交換を求めました。社会復帰事業団については「重要な活動と認識している」との回答がありました。

北海道鉄道本部「カレイ釣り交流会」

北海道鉄道本部はゴールデンウィーク最終日の5月6日に小樽・祝津沖で恒例の「カレイ釣り交流会」をおこない10名が釣果を競いました。今年のカレイ釣りは、週末に天気が崩れたため3週連続して出港が中止となり、小樽水族館の前浜で真鰯が釣れるなど海の模様も例年と大きく違ってしています。カレイの釣果も日によってバラツキが大きく、良い話しを耳にしないシーズンでした。そうした状況でも、小樽支部の猪股さんは70枚のカレイを釣り上げて重量は11.6kgで準優勝し、追分支部の大内さんはギスカジカを加えて11.7kgと僅差の優勝でした。大物賞は45.3センチの特大ホッケを釣り上げた小学3年生の洸太くんで、量でも7.0kgの釣果でした。珍魚賞はピンクのヨロイをまとったカナガシラを釣った大井克由さん。漁師さんの息子ですが魚釣りは小学生以来とブランクはありますが魚の扱いは手慣れたものでした。これから太平洋側がシーズンに入り、6月には室蘭支部が主催する伊達市黄金沖での交流会が計画されています。40センチを超える子持ちマガレイを狙って、仲間の皆さんのご参加をお待ちします。

メーデー・鉄道本部は7会場に29名
小野寺さん、ありがとうございます

桜の開花と重なった第96回メーデーは道内26会場で集会がおこなわれ、鉄道本部は7会場に29名の組合員・家族が参加しました。

全道各地のメーデー集会参加者を対象に「抽選会」がおこなわれ、苫小牧支部の小野寺正夫さんが当選した景品のビール券は6月に開催するパークゴルフ交流会に寄贈されました。小野寺さんありがとうございます、この幸運を「ホールインワン賞」などパークゴルフ参加者に分けてもらいたいですね。